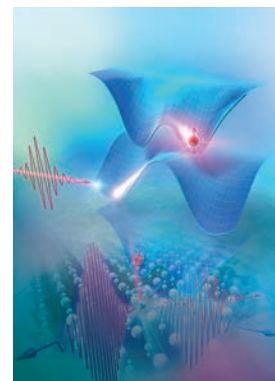


- 01** 化研邁進
100周年を迎えるにあたって
所長 島川 祐一
- 02** NEWS
国際共同利用・共同研究拠点
令和8年度 採択課題決定
文部科学省
「令和8年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰」に
橋川祥史 助教が選ばれました
- 03** 化学研究所100周年に向けて
- 05** 大学院生特集
JOIN US, ICR!
中川 優奈、笠原 彰真、井上 宙夢、
吉川 あゆみ、高野 遥、吉田 笙子
- 07** 研究ハイライト
物質の瞬間を光で追う
教授 廣理 英基
- 09** 辻井敬亘教授 退職記念講演会
第125回化学研究所 研究発表会
- 10** 碧水会
会員のひろば
浅川 直幸、黄瀬 雄司
- 11** 新任教員紹介
- 12** 研究TOPICS
若手研究ルポ
低環境負荷を実現する次世代船底塗膜の開発
助教 石田 紘一朗
溶界面構造制御による高感度ペロブスカイト光センサの開発
准教授 中村 智也
- 13** 受賞者
- 15** 化研の国際活動
掲示板
- 17** 研究費 -令和7年度実績-
- 18** 異動者
客員教員紹介
訃報
事務局日より
編集後記
- 裏表紙** 化研点描
紫綬褒章の受章に際して
金光 義彦



COVER
研究ハイライト
「物質の瞬間を光で追う」より

100周年を迎えるにあたって 第36代所長 島川 祐一

化学研究所は今年10月4日に創立100周年を迎えます。100周年を振り返ると、先人達による輝かしい業績に圧倒されるとともに、これを支えてきた多くの努力、決断、勇気に感銘を受けざるを得ません。ここまでの歴史を紡いできていただいたことに素直に感謝するとともに、改めてこの伝統を引き継いでいく覚悟で身が締まる思いです。

2年前の所長就任の際に、この創立100周年に向けての記念事業を行う準備委員会を発足させて基本計画を練り、その後正式な事業委員会として、現在さまざまな準備を進めています。10月30日の京都大学百周年時計台記念館での記念講演会と記念式典、さらにそれに続く祝賀会のプログラムも出来上がりつつあります。また、100周年記念誌の発行のほかに、10月7日からおよそ2か月間、京都大学総合博物館で特別展を開催することも決定し、化研の誇る4件の化学遺産などを含めた歴史資料を公開することも予定しています。研究所の多くの皆さんには、多岐にわたる準備にご協力いただいていることにまずは感謝申し上げます。特に、広報企画室では、化学研究所の歴史を紐解き、それらを広く一般の方にも見ていただけるようにさまざまな工夫をしています。この地道な作業と努力により、現役の我々も知らなかった歴史や成

果を改めて認識する非常に良い機会となっています。また、100周年記念基金にも、現教職員やOBのみならず、関係企業や卒業生をはじめ、多くの方に賛同いただいていることにも御礼申し上げます。この寄付のお陰で、上記の行事の準備が順調に進んでいることに加え、この節目を盛大に迎えることができることを非常にありがたく思っております。基金はこれらの100周年記念事業の実施だけでなく、学生や若手研究員の支援、研究・教育環境の整備、国際交流の活性化など、今後の化学研究所の研究を支える活動にも活用させていただく予定です。

さて、100周年記念事業の一環として、2024年および2025年の年末に、「京都の化学・化研の歴史」講演会を開催してきました。この会の講演を通して、日本の科学技術の創成期における京都の化学が果たした役割とその中で化学研究所の成り立ち、高度経済成長期における化学研究所発の研究成果の社会還元、そして、新たな化学分野の創出と世界を先導する先駆的な研究、とまさに100年におよぶ壮大な歴史の一端を見てきました。いずれも時代を読み解く鋭い先見性と化学研究に対する高い理念、熱い思いがなければ成しえない成果です。さて、一方翻って、現在の我々はどうか？もちろん現在の活動とその

成果が歴史の中で評価されるのは未だ遠い先のことです。それでも、昨年度に化学研究所が実施した自己点検評価と外部評価では、幾つかの運営上の課題はあるものの、現在、化研が取り組んでいるサイエンスに対しては極めて高い評価を受けたと思っています。それでも、昔の大学・化研の研究に比べると、プロジェクト的な予算による定められた期限での研究の制約や諸問題への対応に追

われ、真に自由な発想に基づく柔軟な研究を行う環境とは程遠い気がしてなりません。(実際のところは、いつの時代にも不平不満はあり、それを跳ねのける活力で取り組んでいたに違いないのですが。)このような状況で、京都大学は新たな国際卓越研究大学へ向けてデパートメント制を中核とする新しい研究組織構想を打ち出しています。大学全体の組織改革の中で化学研究所をどのように位

置づけ、そのプレゼンスを示していくのか、化学研究所の組織改革と共に考える必要が出てきています。これは、100年目の大改革となるかもしれません。

時代の流れにも柔軟に対応しながら、常に先端性・先駆性を志向し、より良くなるための改善を続けていく、これこそが、化学研究所が100年間受け継ぎ、未来へ向けて進んでいくための伝統のひとつです。



**化学研究所
副所長**

教授
寺西 利治



教授
山口 信次郎



**国際共同研究
ステーション長**

教授
小野 輝男



NEWS 01

国際共同利用・共同研究拠点 令和8年度 採択課題決定

令和8年度採択課題(計130件)が決定しました。

NEWS

分野選択型 萌芽的課題	分野選択型 発展的課題	課題提案型 萌芽的課題	課題提案型 発展的課題	施設・機器 利用型課題	連携・融合 促進型課題
国内… 17 件 国際… 3 件	国内… 18 件 国際… 36 件	国内… 11 件 国際… 5 件	国内… 11 件 国際… 21 件	国内… 2 件 国際… 2 件	国内… 3 件 国際… 3 件

NEWS 02



助教
橋川祥史

**文部科学省
「令和8年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰」に
橋川祥史 助教が選ばれました**

2026年4月15日、橋川祥史 助教が令和8年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞に選ばれました。

詳細は
こちら

